



ZEVs: New Works
2025 12.5~2026 2.1
Reception: Fri. 12.5, 18:00-21:00
Live performance: 19:00
Gallery Hours: Thu.~Sun., 13:00-18:00
WATOWA Gallery • 3F JK BLD 1-2-10
Imado, Taito-ku Tokyo 111-0024



Profile: ZEVS (アギーレ・シュヴァルツ)

1977年フランス・サヴェルヌ生まれ。国際的に活動。ZEVS（アーティスト）として成転する。ヨーロッパ、ベルリン、入社を経て現代アーティストとして現地で活動する。ヨーロッパ都市圏で多くの作品を残す。1990年代初頭香港に移り、そこで活動する。ヨーロッパの公共空間での表現は、ヨーロッパの伝統的なアーティストとして認められる。ヨーロッパの色彩感覚に至る。初期には、The Shadow Flasher や The Serial Ad Killer などの名義でグラフィティ活動を行い、1992年に「ZEVS」と番号の付いた列車との衝突寸前の経験を経て現在の作家名を採用した。1997年には反射性塗料を用いた《Electric Shadows》を制作（のちに『Exit Through the Gift Shop』に収録）。1998年にはパリのギャラリーに匿名で電話をかけ「アーティストになるにはどうすればよいのか」と問い合わせるサウンド作品を発表した。2000年代に入ると、広告看板に赤い塗料を吹きかける《Visual Attacks》や、2002年のベルリンにおけるラヴァツツア広告の「誘拐」事件（後にパレ・ド・トーキョーで展示）によって名聲を確立する。この出来事を契機として、企業ロゴを滴り落とした《Liquidated Logos》が始動する。安定な形態へと変換する代表作《Proper Graffiti》、ラッシュ作品など、焼夷漆喰を用いた外線でのみ発光する顔料作品などを制作した。また、高圧洗浄機を用いた外線でのみ発光する顔料作品などを制作した。また、高圧洗浄機を用いた外線でのみ発光する顔料作品などを制作した。

その後、Electroshock（コペンハーゲン、2008年）、Old Masters（2012年）、Noir Éclair（シャトー・ド・ヴァンセンヌ、2016年）、パリ・ニュイ・ブランシユでの《Eiffel Phoenix》（2018年）、MAMOでの《Öikos Logos》（2019年）、《The Last Cowboy is Dead》（2020年）など、制度的発表の場が着実に拡大する。近年では、2023年のルーヴル美術館およびソウルのハンガラム美術館でのプロジェクトをはじめ、《Minimal Paintings》、《Liquidated Sun》など、都市介入とイメージ文化、現代的アイコノグラフィーの境界を探る最新シリーズを展開している。

キュレーターShai Ohayonからのコメント |

本展は、フランス人アーティスト、アギーレ・シュヴァルツ（Aguirre Schwarz）、通称ZEVSが十数年ぶりに日本へ帰還することを記念して開催される重要な個展です。本展のために特別に制作された新作のみを東京で独占的に紹介し、同地との創造的関係の再構築を祝うものとなっています。

出品作品は、ZEVSの作家活動の展開を示すと同時に、日本の文化的文脈との親和性を考慮して選定されています。代表的な「リキデーション（液化）」技法に加え、日本のミニマリズムや国旗の象徴性への端正な言及が織り込まれ、光彩、温度感、生命力といったイメージが立ち上がります。

展覧会の中心を成すのは、〈Cycle 1967〉と題された、2025年制作の新作キャンバス8点です。本シリーズにおいてZEVSは、ディヴィッド・ホックニーが1967年に発表した代表作《A Bigger Splash》を参照し、華やかなモダニティと訪れつつあった社会的不安が交錯した1967年という歴史的節目に改めて光を当てています。各作品はホックニーのカリフォルニアの想像力に基づくモダニスト建築とプールの構図を踏襲しながら、特定の時刻を軸として構成され、同時に黒い流出物がその静謐な風景を攪乱します。この不定形の黒は、同年に発生したトリー・キャニオン号の大規模油流出事故を暗示し、その社会的含意を慎重に喚起しています。

さらに、本シリーズでは、日本への敬意として赤い円が反復して登場します。それは日の丸の象徴性への明瞭な参照であると同時に、フランスの石油企業エルフ・アキテヌ（Elf Aquitaine）が1967年に使用していたロゴを想起させます。かつて活力と進歩の象徴であったこのロゴは、今日では環境負荷の視点から再評価を迫られる存在でもあります。加えて、プールの水面には、パリのオランジュリー美術館に所蔵されるクロード・モネ《睡蓮》の断片が引用され、光と時間の観察に関する印象派の研究との美術史的対話が構築されています。作品はそれぞれ、Veille 3h、Morning 7h、Matin calme 9h、Midi 12h、Déclin 15h、Couche 18h、Crépuscule 20h、Nuit 22hといった特定の時刻に対応し、1日の周期を成す連作として統合的に構成されています。

ZEVSの“プール作品”は、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの主要美術館および重要コレクションに収蔵されており、Galerie Rive Gauche（パリ、2015）、Lazarides（ロンドン、2016）、MAMO（マルセイユ、2021）、ハンガラム美術館（ソウル、2023）など、国際的に評価の高い会場で展示されてきました。本展でこれら新作を日本の観客に紹介できることは、非常に意義深い機会となります。

これらに加えて、本展では《Liquidated Sun》（200 × 200cm）の大作も出品されます。ミニマルかつ抽象的な本作は、オリヴィエ・モッセとジャン=バティスト・ソヴォージュによる2017年の〈Olt〉プロジェクトとの形式的共鳴を見せながら、再びエルフの旧ロゴおよび日本の国民的象徴との関係性を喚起します。ZEVS特有の滴下と流動の語彙を通して、本作は歴史的忘却、文化的摩耗、象徴性の脆弱性といった主題を示唆し、一方で純粋な形式的探究として、日本の戦後美術における幾何学的純度一もの派、具体、戦後グラフィックデザインの系譜への批評的応答とも読み解けます。

展覧会の締め括りを飾るのは、ZEVSの新作シリーズ〈Minimal Paintings〉。本シリーズは、作家の実践における内的転換を示す重要な指標といえます。克制を基調とした本作群は、抽象化と還元を志向しながら、2000年代前半の〈Visual Attacks〉の精神を微かに残しています。作品の起源は、ZEVSが都市空間での介入行為に向かう前、スタジオにてスプレー缶の調整を行うために用いていた白いモノクロームのテストキャンバスに遡ります。2024年、彼はこれら偶発的痕跡を再評価し、小型の正方形キャンバスによる自律的な連作へと昇華させました。予備的ジェスチャーの形式化を通じて、ZEVSは街頭介入の手法を絵画作品として再構造し、イメージ、影響、消去をめぐる探究に新たな層を加えています。

本シリーズはまた、ZEVSの制作姿勢における深化と省察の現れでもあります。消費主義、ブランディング、企業権力に対する長年の批評的実践を経て、作家は近年、内省や本質主義、さらには現代の視覚的過多への応答へと向かいつつあるように見受けられます。絵画行為そのものへの新たな関心が示唆され、グラフィティのコンセプチュアリズムと自律的絵画の境界領域を探る試みとして理解することも可能です。

シャイ・オハヨン

1 | 世界的ブランドロゴを“溶解する”象徴的シリーズ 《Liquidated Logos》

ルイ・ヴィトン、シャネル、グーグル、マクドナルドなど、世界的アイコンを同色の滴で“液化”させることで、ブランドの永続性や資本主義に潜む幻想に問い合わせを投げかける代表作。国際美術館・コレクターから高く評価されるZEVSの核心的シリーズを、大規模に紹介します。

2 | ホックニーの名作を再解釈する 《Hockney Series》

デイヴィッド・ホックニーが1967年に発表した代表作《A Bigger Splash》を参照に、石油企業のロゴを溶かし込み、豊かな景観の裏側に潜む企業資本主義と環境問題の影を描く作品群《Cycle 1967》。現代の風景を“記号の層”として再構築するZEVSの絵画的アプローチが際立ちます。

3 | 都市を舞台にした初期アクション 《Electric Shadows》 《Visual Attacks》

夜の影を反射塗料で固定化する“影の記録”、広告モデルの額に赤い滴を加える可視的攻撃、巨大広告から人物だけを切り抜く“Visual Kidnapping”。90～00年代の都市を揺さぶった“事件的作品”が、貴重な写真・映像とともに再構成されます。また、新作シリーズ〈Minimal Paintings〉では、〈Visual Attacks〉の精神を僅かに踏襲し、街頭介入の手法を絵画作品として再構造。イメージ、影響、消去をめぐる探究を重ねています。

4 | 美術史への挑発 《Old Masters》

ダ・ヴィンチの人体図にルイ・ヴィトンのLVモノグラムを重ねるなど、古典美術と現代ブランドの関係性を問うシリーズ。美術史の権威を搅乱する、ZEVSならではの批評的ユーモアが展開されます。

ZEVS : New Works



“ Small Hours “

Medium : Oil , Acrylic painting on canvas
size : 1600mm × 1000mm
price : 50,000EUR+tax
unique
2025

ZEVС : New Works



“ Morning “

Medium : Oil , Acrylic painting on canvas
size : 1600mm × 1000mm
price : 50,000EUR+tax
unique
2025

ZEVС : New Works



“Calm Morning”

Medium : Oil , Acrylic painting on canvas
size : 1600mm × 1000mm
price : 50,000EUR+tax
unique
2025

ZEVS : New Works



“ Noon “

Medium : Oil , Acrylic painting on canvas
size : 1600mm × 1000mm
price : 50,000EUR+tax
unique
2025

ZEVS : New Works



“ Decline “

Medium : Oil , Acrylic painting on canvas
size : 1600mm × 1000mm
price : 50,000EUR+tax
unique
2025

ZEVS : New Works



“Sunset”

Medium : Oil , Acrylic painting on canvas
size : 1600mm × 1000mm
price : 50,000EUR+tax
unique
2025

ZEVС : New Works



“ Twilight “

Medium : Oil , Acrylic painting on canvas
size : 1600mm × 1000mm
price : 50,000EUR+tax
unique
2025

ZEVS : New Works



“ Night “

Medium : Oil , Acrylic painting on canvas
size : 1600mm × 1000mm
price : 50,000EUR+tax
unique
2025